

かかりつけ医と多職種連携部会

目的：チーム医療・介護に向けて、多職種の相互理解を図る。在宅療養支援において、多職種連携の質向上のための検討を行う。

結果：多職種相互理解のための資料作成について検討。各団体の紹介資料を持ち寄り、5分間程度でパワーポイントにまとめ、この資料を多職種対象とした相互理解のために活用することに決定した。

今後：部会を通じてかかりつけ医と多職種連携が進みつつあるが、個々のかかりつけ医との連携が進んでいないことについて引き続き検討が必要。

れんけい手帳検証部会

目的：れんけい手帳の運用状況、内容について継続した検証を行う。

結果：利用者・支援者向けの周知が不足している。対応策として、介護支援専門員に再度周知を働きかける。対象者の目安を「新規利用者」から「全ての利用者」に拡大する。医科、歯科医療機関、薬局等に掲示用ポスターの作成。

⇒リハビリテーション科内においても、掲示する必要があることを会議内にて説明。郵送物にて各施設にポスターを配布しますのでご活用ください。

今後：手帳の形状を含め、今後も継続して運用状況について検討を行っていく。

「食べる」支援検討部会

目的：「食べる」行為について職種間で支援に関する役割を確認する。

高齢者が食べ続けるために高齢者自身や支援者（家族、介護事業所等）が実践できる方策と周知方法の検討を行う。

結果：リーフレット「いつまでも、食べ続けるために」の作成、活用について11,000冊作成（市役所ホームページからダウンロード可能）
日本プライマリケア連合学会・近畿地方会への発表。

今後：リーフレット作成とプライマリケア学会発表を区切りとして部会は終了。

介護予防部会

目的：生活機能障害を引き起こす運動器の機能低下予防について、切れ目のない対応策を提案すること。

結果：運動機能が低下している高齢者が多く、外出を控える理由は足腰の痛みが多いという実態がある。地域で浸透しつつあるいきいき百歳体操（約400グループ）に虚弱、要介護高齢者になっても、いつまでも参加し続けるための対応策を検討。

今後：病院のリハ職や連携部門、訪問看護師などが、いきいき百歳体操を活用するための方法や活動中断の原因となる痛みや転倒リスクへの対応策について検討を継続する。